

みんなの童話

はじめてのクッキング



ほうか後の校でいを冷たい風が吹きぬけていきました。

「さむい」

ゆかちゃんは、合わせた両手にいきを吹きかけながら、家に帰りました。

「ただいま」

「おかえり」

玄関のドアを開けたお母さんの声に、元気がありません。

「お母さん。どうしたの？顔赤いよ」

「少し体がだるいの。でも大丈夫よ」と、二階に洗たく物を取りこみに行きました。

ゆかちゃんは、キッチンテーブルの上で算数の宿題を始めました。

お母さんはもどつてくると、洗たく物をたたみ始めました。たたんで

いるお母さんの体が、ゆらゆらゆらとゆれていきます。

「お母さん、ふらふらしてるよ。ねた方がいいよ」

お母さんは、洗たく物をたたみ終

えると言いました。

「じゃー、ねかせてもらうね」

一人ぼつちのキッチンは、急にし

んとしずかになりました。今まで

気にならなかった時計の音が、カチ

カチ、と大きくなって聞こえました。

（五時か。お母さん、どうしてるか

な？）

ゆかちゃんは、お母さんのことが

気になって、宿題が少しも進みませ

ん。

（あ、そつだ）

冷蔵庫から冷えびたを取り出し

ました。ゆかちゃんは、熱を出した

時に、お母さんにはつてもらつたこ

とを思い出したのです。

「お母さん、早くよくなつてね」

ゆかちゃんは、お母さんのひたい

に、冷えびたをはりました。お母さ

んが、目をさしました。

「お母さん、今日は私が夕ごはん作

るね」

「だめよ、あぶないから」

「三年生だもん、大丈夫だよ」

ゆかちゃんが、どうしても作ると言うので、お母さんは、しぶしぶゆるしました。

「シチューの作り方を教えて。シ

チューならぐあいの悪いお母さんも

たべられるよね」

ゆかちゃんは、作り方を一生けん

命おぼえました。

ゆかちゃんは、お母さんの言った

ように玉ねぎを半分にして、それを

また半分にしました。トン、トン、

トン。だんだん目にしみてきました。

「目がいたい」

ゆかちゃんは、手のこうでなみだ

をぬぐうと、玉ねぎを切りました。

（じゃがいもは、一センチぐらいの

角切り？どれぐらいかな）

ゆかちゃんは、ものさしを持って

くると「こーこじゃがいもに当てて

切りました。

（にんじんはどうするんだつたかな

？）

ゆかちゃんは、お母さんに聞きに

行きました。でも、ねていたので起

こしませんでした。

（にんじんも、じゃがいもと同じよ

うに切っちゃえ）

ゆかちゃんは、にんじんをじゃが

いもと同じように切りました。かた

くてほうちようをにぎった手がいた

くなりました。

（あとはいためて、ルーを入れれば

いいんだ）

シチューがグググツいっています。

七時になって、お父さんが会社から

帰って来ました。

「ゆかが作っているのか、お母さん

は？」

ゆかちゃんは、お母さんのぐあ

が悪いことを話しました。

「そつか、それならお父さんがサラ

ダを作るか」

お父さんは、サラダが出来上がる

と、お母さんを起こしに行きました。

おいしそうなシチューのにおいが、

キッチンにただよっています。さい

ころみたいなにんじんとじゃがいも

が見えました。

お父さんが、すいはんきのふたを

開けて、言いました。

「ゆかー、ごはんは？」

「ああ、たくのわすれたー」

テーブルには、ごはんのかわりに

パンがのりました。

「シチュー、おいしいわよ」

お母さんが、ほめてくれました。

「はじめてのクッキング半分だけ大

成功！」

「それつて、大成功つて言うのか」

お父さんがわらいました。

ゆかちゃんは、またクッキングし

たいとおもいました。大成功をめざ

して！